

コンツーラ C620G ブラギ 取扱説明書

型番 Contura C620G



WOOD BURNING STOVE

目次

はじめに	2
表示記号の説明、警告	2
注意、ご使用になる前に	3
各部の名称	4
使用方法	4~7
薪の特徴と使用の注意	
準備	
ドアの開閉	
給気の開閉	
着火	
薪の追加・RBF(Refuelling Boost Function)	
消火	
灰の掃除	
蓄熱・対流モードの切替	
日常のお手入れ	8~9
ガラスの清掃	
ストーブ表面のお手入れ	
灰の清掃	
煙突の掃除	
お部屋の換気口の掃除	
ガスキットの交換	
炉内バーミキュライトの交換	
設計標準使用期間	
パーツリスト	10
トラブルシューティング	11
連絡先一覧	15

この度は本製品をお買い上げいただきありがとうございます。

正しく安全にご使用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

取扱説明書、設置説明書の内容がいつでも確認できるよう、大切に保管してください。

はじめに

本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的なメンテナンスが必要です。

この取扱説明書をよくお読みになり、十分理解されてからご使用ください。

また、この取扱説明書に示されている使用方法および安全に関する注意事項は、本製品を指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。

この取扱説明書に示されていない使用方法是、絶対に行わないでください。

お買い上げの製品と詳細において予告なく仕様を変更する場合があります。

ストーブの機能を十分発揮させ、効果的かつ安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。

表示記号の説明

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防ぐために、安全上のご注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

この章に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

記号と意味は下記のとおりです。内容をよく理解してからお読みください。



警告：警告事項を守らないと死亡や重傷に至る重大な事故を起こす恐れがあります。



注意：注意事項を守らないとケガを負う、または製品に損傷を与える恐れがあります。

警告

- ☐ ガソリン、灯油、プラスチック、ビニール、ゴム、竹、発泡スチロール、ベニヤ、化学塗料で塗装された木材などは絶対に燃やさないでください。また、ストーブを焼却炉として使用しないでください。本体や煙突の耐久性を弱める、あるいは有毒ガス発生の原因となる恐れがあります。
- ☐ ストーブの上や周囲および煙突の周囲には、紙・衣類・洗濯物など可燃物を置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- ☐ ストーブの周囲には、ガソリン、ベンジン、スプレー缶など引火の恐れのあるものを置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- ☐ ストーブや煙突は、絶対に改造しないでください。正常な機能が損なわれる恐れがあります。
- ☐ 居室の給気口は常に確保し、家具などでふさがないようにください。室内の空気が不足し酸欠状態になる、あるいは煙や炎が室内に戻ってくる恐れがあります。
- ☐ 燃焼中にドアのガラスにヒビが入るなどして破損した場合は、使用を中止し、修理が完了するまで使用しないでください。
- ☐ 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に鎮火後、廃棄してください。灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどは、絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても長時間火種が残っています。
- ☐ 煙道内火災は煙突だけでなく、建物本体にもダメージを与えて火災の原因となる恐れがあります。一年に一回以上煙突を掃除してください。
- ☐ ストーブから離れるときは、ドアがロックされていることを確認してください。薪が崩れてドアが開き、燃焼中の薪や火種がストーブの外に落ちて、火災の原因となる恐れがあります。
- ☐ 屋根に上って作業をする場合は、安全を確保しおこなってください。

Contura

注意

- ☐ 燃焼中および燃焼後しばらくの間は、ストーブや煙突は高温になっておりますので、絶対にさわらないでください。火傷の原因となります。
- ☐ ドアおよび給気口の開閉操作、着火、薪の投入など、ストーブを扱う場合は必ず保護手袋を装着してください。燃焼中および燃焼後しばらくの間、ストーブは大変熱くなるため、直接触れると火傷の原因となります。
- ☐ ストーブの輻射熱を長時間、直接皮膚にあてると火傷の原因となります。特に、乳幼児、お子様、お年寄り、身体の不自由な方がストーブの近くにいる場合は、まわりの方が注意してください。
- ☐ 薪を入れ過ぎ、または燃焼空気を取り入れ過ぎることなどによる、ストーブおよび煙突の過熱に注意してください。過熱は、ストーブ本体および煙突の破損や劣化を早めるばかりでなく、火災につながる恐れがあります。
- ☐ 常に乾燥した薪をご使用ください。乾燥が不十分な薪は燃えにくく、クレオソート（煤・タール）が多く発生し、煙道内火災につながる恐れがあります。
- ☐ シーズンのはじめに、ストーブおよび煙突を点検してください。煙の排気を妨げる、木の枝や鳥の巣などを取り除いてください。延焼し火災につながる恐れがあります。
- ☐ 灰は、ストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
- ☐ ガスケットは、ストーブ本体が冷えている状態で交換してください。火傷の原因となります。
- ☐ ストーブ表面は、ストーブ本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- ☐ ドアのガラスは、ストーブ本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- ☐ ドアのガラスの縁に直接触れると、ケガの恐れがあります。メンテナンスの際は、軍手などをはめてください。
- ☐ ガスケットを交換するときは、お部屋の床や家具が汚れないように養生してください。
- ☐ 吹きこぼしなどによって、調理中に天板が汚れた場合は、必ずストーブが冷めてから、表面を掃除してください。加熱中に表面を掃除すると、火傷の原因となります。
- ☐ 燃焼中はドアを開ける前に、燃焼用給気口が全開であることを確認してください。給気口を閉めているときにドアを開けると、急な大量給気によって、炎がドアから外に出る恐れがあります。
- ☐ 煙突掃除の際は、お部屋の中が煤だらけにならないように周囲の養生をしてください。

ご使用になる前に

初めてのご使用時は、薪を燃やすと薪ストーブ本体および室内煙突に塗られていた錆止め油や塗料が馴染むまで、臭いや煙が出ることがあります。臭いや煙が出た場合は、窓を開けるなどして十分換気してください。また、メンテナンスで塗料を塗り直した場合にも、同様に臭いや煙が出ることがあります。十分換気してください。

☐ 薪ストーブと気密性の高い建物

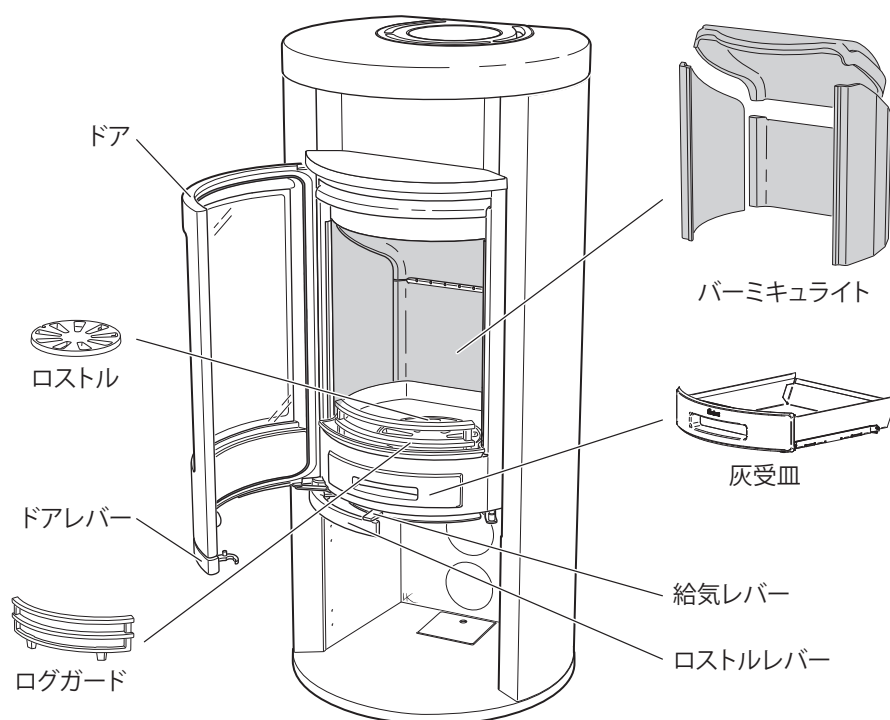
建物には排気のための換気扇や、室内へ空気を取り入れるための室内給気口が設置されていますが、給気口を閉じたり、給気が十分でないと室内が負圧になり、煙が煙突から屋外へ排気されずに室内へ戻る場合があります。

これは、煙突が室内給気口の働きをするためです。室内に煙が戻ってきた場合は、換気扇を止めたり、室内給気口を開けたり、窓を少し開けたりしてください。室内の負圧状態が解消され、薪燃焼に因る煙突の自然の上昇気流による排気の力が戻ります。

また、煙突や炉の中が十分暖まっていない時にドアを開けた場合にも、煙が戻ることがあります。

大きな地震などの天災により、損傷の恐れがある場合には、使用せず、煙突ジョイント部等の確認をしてください。使用の再開については、弊社または特約店、販売店へご相談ください。

各部の名称



使用方法

⚠ 注意

ドアおよび給気口の開閉操作、着火、薪の投入など、ストーブを扱う場合は、必ず保護手袋を装着してください。燃焼中および燃焼後しばらくの間、ストーブは大変熱くなるため、直接触れると火傷の原因となります。

○薪の特徴と使用の注意

十分乾燥した薪を使用してください。薪以外の燃料は使用しないで下さい。割ったばかりの薪は、湿気が多く不完全燃焼によって煙が多く発生し、湿った排気は煙突内を汚します。薪の湿気は燃焼により水蒸気となり炉の中で凝縮し、炉内の

隙間によって漏れることがあり、床に黒い汚れた水が落ちることがあります。

薪の樹種を選ぶことも大切です。『ナラ、ブナ、クヌギ、サクラ、リンゴ、ニセアカシア』などの広葉樹といわれている木は、薪に適しています。身が詰まっていて重く樹液が少なく、火持ちが良いためです。『マツ、スギ、ヒノキ』などの針葉樹は樹液が

多く、火持ちはあまりよくありませんが、火力が強いため、焚き付けに適しています。

樹液の多い薪は、火力が強いため、そればかりを燃やすと炉を傷めたり、煙突内が松脂のようなドロリとしたススで汚れ

⚠ 注意

以下の燃料を使用しないでください。環境を汚染するばかりでなく極度にストーブ内部と煙突内部を汚し、煙突火災の原因となります。

また、ストーブ本体および煙突の損傷や劣化の原因となります。

▷ 廃材の薪、塗装した木材、防腐木材、合板等

▷ プラスチック、再生紙及び家庭廃棄物

○準備

ストーブを使用するために、下記のものを用意します

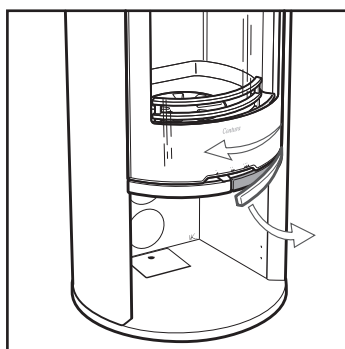
- よく乾燥した薪
- 着火材
- 焚き付け用の薪
- マッチまたはライター
- サーモメーター
- 保護手袋
- フタ付きの不燃性の容器(灰入れ/バケツ)
- 十能(ファイヤーセットのシャベル)

Contura

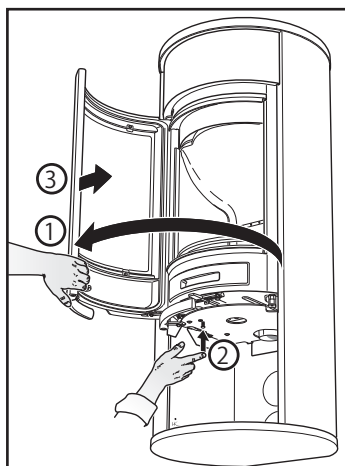
Subject to change because of technical improvements
Copyright (C) 2020 METOS Inc.

○ドアの開閉

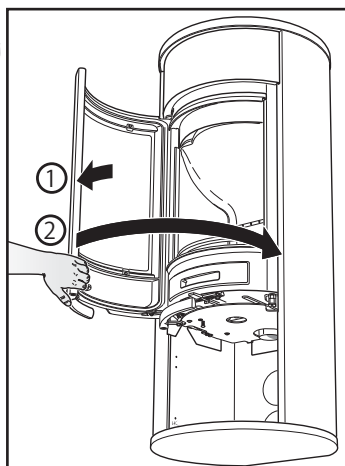
ドアの操作は右側の「ドアレバー」を使用します。「ドアレバー」を手前に引くとロックが外れドアが開きます。開いたドアは元の位置に戻して軽く押し込むとロックが掛かり閉じます。



ドアを開き下部のボタンを押し込むとドアが開いた状態で固定できます。



ドアストッパーの解除は、ドアを少し開くことにより解除されます。

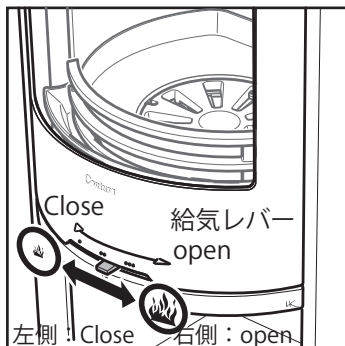


⚠ 注意

ドアを勢いよく閉じると、衝撃でガラスにダメージを与えることがありますので、軽く押し込んでください。通常燃焼ではドアを閉じて燃やしてください。

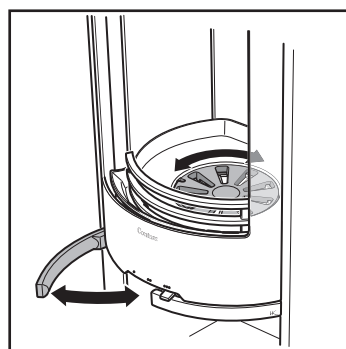
○給気の開閉

一次燃焼、二次燃焼、エアカーテンすべての給気を一つのレバーで操作できるのがコンツラの特長です。図中の矢印の方向へ動かします。



○着火

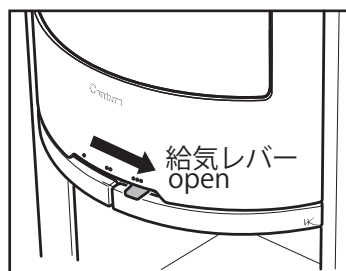
1.ロストルレバーを前後に数回動かしロストルを回転させます。炉内の空気の通りをよくするために行います。その後ロストルレバーを元の位置に押し込み閉じた状態にします。



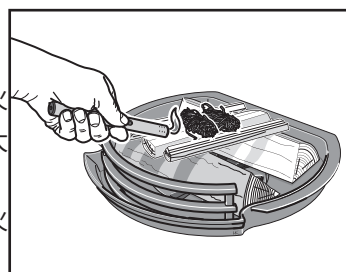
⚠ 注意

火をつけるときはロストルレバーは閉じた状態にしてください。開いた状態のままだと薪の燃焼が早くなりすぎ、ストーブが損傷する可能性があります。

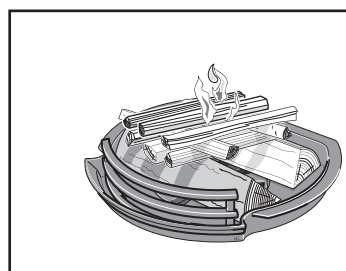
2.給気レバーを右側に動かし燃焼用空気を全開にします。



3.図のように薪を2〜3本(約2.0kg)置き、その上に焚き付け用の薪と着火剤を置きます。薪の最大長さは36cmまでです。マッチやライターで着火剤に火をつけます。



4.炉内部にある給気用ダンパーにより着火時に必要な空気が供給されるのでドアを閉めます。薪が燃えはじめ炉内の温度が上がってくると自動で給気用ダンパーは閉じます。



5.全体に火がまわり燃焼が安定してきたら、給気レバーをゆっくりと左へ動かし給気を絞ってください。給気レバーは、メモリ「・・・」の位置を目安に調整しておくと安定して燃焼します。(給気レバー60%程度で定格燃焼です)

炉内の密閉度が高いため、給気レバーを完全にCLOSEにすると炎が消えてしまうことがあります。

⚠ 注意

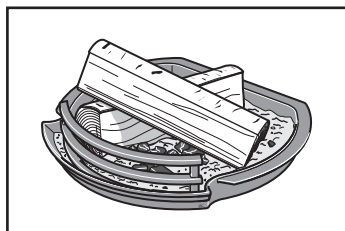
薪の入れすぎ等により過燃焼になるとストーブが損傷する可能性があります。

Contura

○薪の追加

薪の追加は1時間あたり2～3本(約1.5～2.5kg)を目安にしてください。
炉の中の薪がおき火の状態になったら薪を追加します。

1. ドアを数秒間、少し開き炉内の環境を均一にします。
その後ドアを全開にします。
2. 図のように1本の薪の上に残りの1本を斜めに置いてください。



3. ドアを閉めます。
4. 追加した薪が燃え始めるまで給気レバーは全開にしてください。
5. 全体に火がまわり燃焼が安定してきたら、給気レバーをゆっくりと左へ動かし給気を絞ってください。
給気レバーは、メモリ「・・」の位置を目安に調整しておく目安で燃焼します。
(給気レバー60%程度で定格燃焼です)

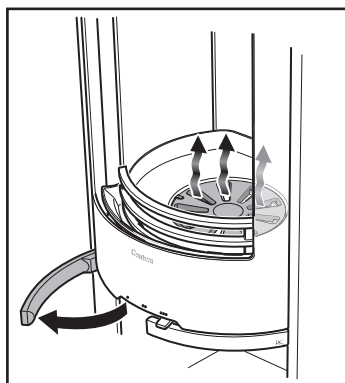
⚠ 注意

扉および給気レバーの開閉操作、着火、薪の投入などストーブを扱う場合は、必ず保護手袋を装着してください。また扉は自動で閉まりますのでドアストッパーを使用する、もしくは保護手袋を装着した手で押さえて作業してください。火傷の原因となります。
薪の入れすぎ等により過燃焼になるとストーブが損傷する可能性があります。

○R B F Refuelling Boost Function

薪を追加するときに、おき火が弱くなっていると追加した薪を燃焼しにくいことがあります。
このような時、この機能を使うと下部の給気口から補助空気を送り込み再燃焼を加速させることができます。

1. 前項「薪の追加」手順と同様に薪を置き扉を閉めます。
2. 給気レバーを全開にします。
3. ロストルレバーを手前に引きます。
炉内に多量の空気が供給され薪が燃え始めます。
4. 薪が燃え始めたらすぐにロストルレバーを元の位置に戻します。
5. 給気レバーを必要な設定に調整します。



⚠ 注意

燃焼中はロストルレバーを開いたまま使用し続けると薪の燃焼が早くなりすぎ、ストーブが損傷する可能性があります。

⚠ 注意

ドアを開けたまま薪を燃焼させないでください。
定期的に薪をくべて燃焼させてください。

薪の燃焼に比べ給気を極度に閉めたり、低い温度での燃焼は、ススやクレオソートが溜まりやすく、煙突火災の原因になります。
ご注意ください。

⚠ 警告

ストーブから離れるときは、ドアが閉まってロックされていることを確認してください。
薪が崩れてドアが開き、薪や火種がストーブの外に落ち、火災の原因になります。

○消火

1. ドアを閉めてロックします。
2. 薪の火が自然に消えるまでそのままにしておきます。

緊急時の消火

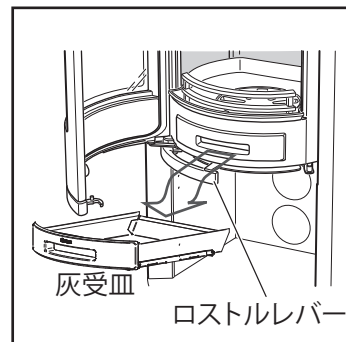
緊急時の消火については、消火器を炉の中に噴射する。または濡れた布を炉床に投入する方法があります。
この方法はストーブを壊すおそれがありますので緊急時の最終手段です。

○灰の掃除

⚠ 注意

灰の掃除は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。
薪が燃えた後は少量の灰が残ります。シーズン終了後は、灰を取り除いてください。
灰は湿気を吸うため、サビの原因となります。

1. ドアを開けてください。
2. ロストルレバーを手前に引き開き、火掻き棒を使用して灰を灰受皿に落としてください。
3. フタ付きの不燃性の容器へ入れてください。
4. ロストルレバー、灰受皿を戻してドアを閉めてください。



※灰を捨てる際のゴミの分別は各地方自治体の指導に従ってください。

⚠ 注意

ロストルレバーを開いたまま燃焼しないでください。
薪の燃焼が早くなりすぎ、ストーブが損傷する可能性があります。

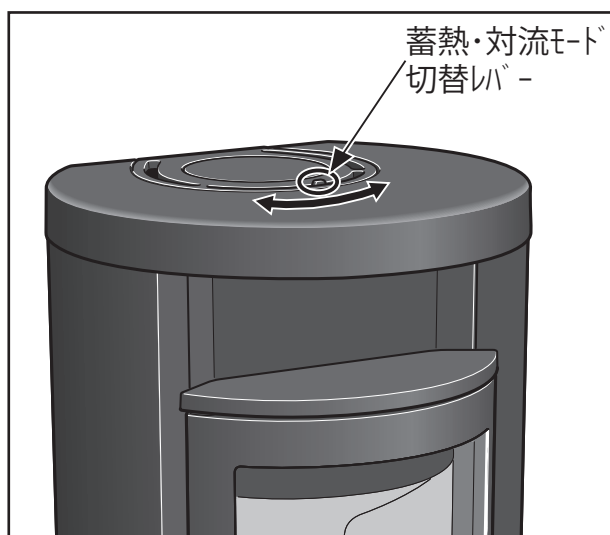
⚠ 警告

灰は必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に消火後、廃棄してください。
灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどを、絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を、可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても、長時間火種が残っています。
火災の原因となります。

Contura

Subject to change because of technical improvements
Copyright (C) 2020 METOS Inc.

○蓄熱・対流モードの切替



ホットエアーダンパーを開閉することにより、蓄熱モードと対流モードを切り替えて使うことができます。切替方法は天板にあるレバー(蓄熱・対流モード切替レバー)を左右に動かします。

- ・ 左側に動かすとダンパーが閉じて「蓄熱モード」、本体に内蔵されたパワーストーンに蓄熱し優しい輻射により暖房を行います。より長い時間お部屋を暖めることができます。
- ・ 右側に動かすとダンパーが開き、「対流モード」、熱気がホットエアーグリルより上昇し、対流暖気としてお部屋を暖めます。お部屋をすばやく温めたい時に適しています。

日常のお手入れ

⚠ 注意

お手入れはストーブ本体が冷えている状態で行ってください。
薪ストーブををよい状態に保つために本章中の保守指示に従ってください。

- ☐ シーズンが始まる前に煙突を点検し、必要に応じて専門家による煙突掃除を推奨します。
- ☐ シーズン中に一度は煙突の点検をお勧めします。
- ☐ シーズンが終わったら煙突を点検した後、汚れが酷い場合は掃除をしてください。

○ガラスの清掃

使用頻度によって、ガラスはススが付着するなどして汚れることがありますので以下の手順により清掃を行ってください。

⚠ 注意

ドア、ガラスの掃除はストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。
ドアガラスの縁に直接触れると、ケガをする恐れがあります。メンテナンスの際は軍手等をはめてください。

- 1.乾いた布でガラス表面の煤などを強く擦らずに拭き取ってください。
- 2.ガラスクリーナー(液状)などを使用する場合はスポンジなどに適量取り、強く押しつけずに、拭いてください。ガラスに洗浄成分が残らないように丁寧に拭き取ってください。

ワンポイント

軽い汚れは、濡れた新聞紙に灰をつけて磨きます。ガラスにススがこびり付く前にお手入れをすると簡単にきれいになります。

○ストーブ表面のお手入れ

⚠ 注意

ストーブ本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。

- 1.ストーブ表面の焦げつき、サビなどを古歯ブラシでこすって落とします。落ちない場合は、やわらかいワイヤーブラシ、または目の細かいサンドペーパーで磨きます。
- 2.本体に合った耐熱スプレー塗料を塗って自然乾燥させます。

○灰の掃除

灰が炉床にたまってきたら、灰を取り除きます。詳細については、「使用方法」灰の掃除を参照してください。(P6)

○煙突の掃除

⚠ 警告

煙道内火災は煙突だけでなく、建物本体にもダメージを与えて、火災の原因となるおそれがあります。

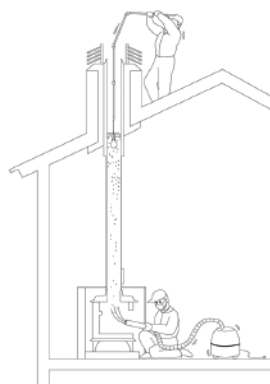
1年に1回以上、煙突を掃除してください。
屋根に上って作業をする場合は、安全を確保しておこなってください。

⚠ 注意

煙突掃除の際は、お部屋の中がススだらけにならないように周囲の養生をしてください。

薪を燃やすと、ススやクレオソートが煙道内に付着します。クレオソートは、木のタールの蒸留によってできる液体です。クレオソートは着火点が低いため、煙道内火災の原因となります。ストーブの使用頻度にもよりますが、1年に1回以上は煙突を掃除し、ススを取り除いてください。

弊社または特約店、販売店へご連絡いただければ、煙突およびストーブの掃除および点検をいたします。



煙突掃除の際は、お部屋の中がススだらけにならないように周囲の養生をしてください。

○お部屋の換気口の掃除

薪ストーブライフを快適におくるにはお部屋の換気が重要です。お部屋には空気を取り入れるための換気口が設置されています。

換気口に取り付けられているフィルターは定期的に掃除してください。

※換気口の場所・掃除方法については工務店、ハウスメーカーにお問い合わせください。

⚠ 注意

換気口やフィルターがホコリやゴミ等で目詰まりすると、お部屋が十分に換気されず必要な空気がお部屋に入らなくなるため、室内が負圧状態になります。負圧になると着火しづらい、煙がお部屋に戻ってくる等の原因となります。

⚠ 警告

お部屋の換気が十分にされないと、空気が不足し酸欠や、一酸化炭素等を含んだ煙がお部屋に漏れて、重大な事故につながるおそれがあります。

Contura

Subject to change because of technical improvements
Copyright (C) 2020 METOS Inc.

○ガスケットの交換

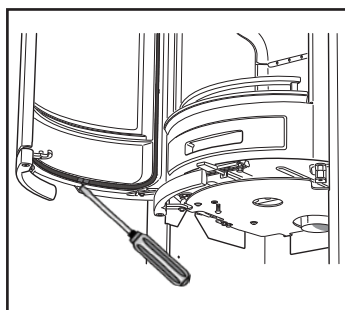
⚠ 注意

ガスケットの交換は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。
ドアガラスの縁に直接触れると、ケガをするおそれがあります。メンテナンスの際は保護手袋、マスク等で保護して作業を行ってください。

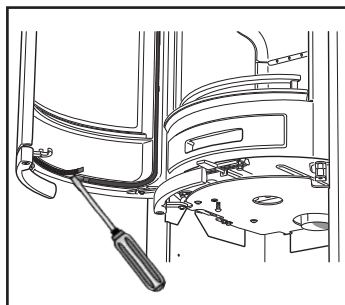
ガスケット(ドアなどの内側周囲についているグラスファイバーロープ)は、ドアとストーブ本体の隙間を埋める部品です。ガスケットが消耗するとドアを密閉できなくなり、余分な空気がストーブ内に流入します。

3年前後を目安に、交換が必要になります。煙突掃除および点検作業のときに一緒に交換すると良いでしょう。

1. マイナスドライバー等でガスケットのつなぎ目に差し込み、端から取り出します。



2. ガスケットを溝から引きはがします。



3. 溝についているガスケットセメントやガスケットの繊維を、マイナスドライバーなどで取り除きます。
ガスケットセメントを取りきれない場合は、ワイヤーブラシやサンドペーパーで溝をならします。
細かいホコリなどはウエスで拭き取ります。

4. 新しいガスケットセメントを溝に充填します。

5. ガスケットを溝にぴったりと貼り込みます。
1本のガスケットを使用してください。
継ぎ目が多いと密閉度が低下します。

6. 余分なガスケットを切り取ります。
ガスケットの端は、浮かないようにしっかりと溝に押し込みます。

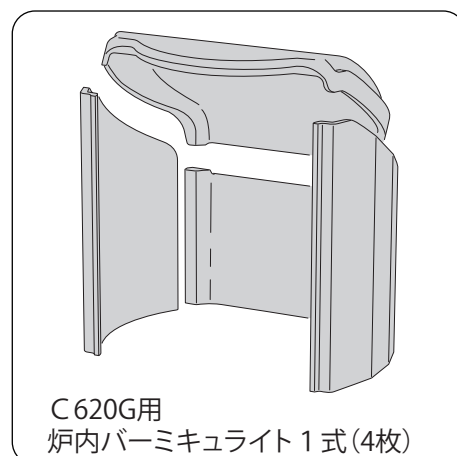
7. ガスケットセメントを自然乾燥させます。
自然乾燥には、約1日かかります。

- ☐ 急激に乾かすとセメントがひび割れたり、はがれたりすることがあります。自然に乾燥するのを待ってください。
- ☐ ガスケットロープは引っ張って充填しないでください。空気漏れの原因となります。

○炉内バーミキュライトの交換

⚠ 注意

炉内バーミキュライト交換は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。
ドアガラスの縁に直接触れると、ケガをするおそれがあります。メンテナンスの際は軍手など手袋をしてください。
ドアガラス、炉内部などは保護具を付け作業周辺部は養生を十分に行い作業を行ってください。



- ☐ 弊社あるいは販売代理店へご連絡いただければ、交換、掃除および点検いたします。

炉内バーミキュライト(スペアパーツ)など、補修用性能保有部品は製造打ち切り後、最低7年間の期間保有しております。最低保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので相談ください。

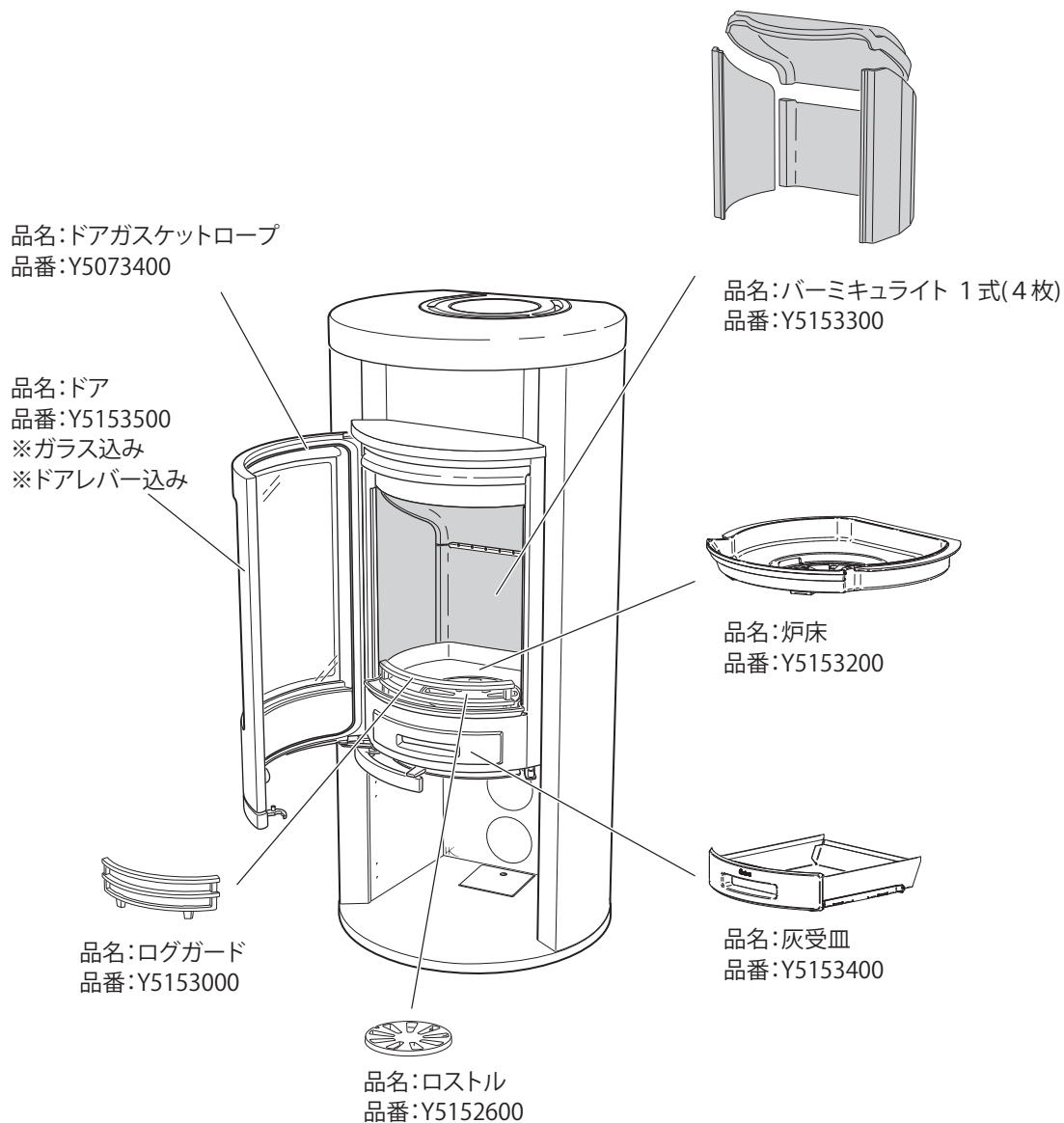
○設計標準使用期間

設計上の標準使用期間 - 5年

本期間は設計上の目安であり、また期間内でもその期間を過ぎても製造者や輸入者、販売者が無償修理や無償交換の義務を負うものではありません。
標準的な使用環境と使用条件下で、取扱説明書に従いメンテナンスを行い正しく使用した場合、設計標準使用期間を5年とし、適切な点検を行わずこの期間を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

Contura

パーツリスト



※本パーツリストは、予告なく変更する場合があります。記載の部品以外の交換はしないでください。

※本製品の改造及び本パーツリスト以外の分解に対しての一切の責任は負いかねます。

※ご注意 本資料の全部または一部を無断で複製(コピー)することは著作権上での例外を除き、禁じられています。

Contura

Subject to change because of technical improvements
Copyright (C) 2020 METOS Inc.

トラブルシューティング

トラブル	原因	対処法
火の燃えが良くない	薪が湿っている	よく乾燥した薪を使用してください
	太い薪だけを使用している	焚き付け用薪を多めに使用してください
	給気量が少ない	燃焼用給気口を開けてください
	煙突やトップ部にススやクレオソートがたまっている	煙突を掃除してください
屋内に煙が戻る	換気扇が回っている	換気扇を止めてください(負圧の解消)
	炉の中の温度が十分上がっていない状態でドアを開けた	炉の中の温度が十分上がっていない状態で扉を開けると、本体の構造上、多少煙が戻ってくる場合があります。故障ではありません。
	建物周辺で下降気流(ダウンバースト)が起きている	局所的、短時間にまれに発生する気象条件です、天候の回復を待ちお使いください
	煙突が短い	煙突を追加する必要があります。弊社または特約店、販売店までご連絡ください
	煙突やトップ部にススやクレオソートがたまっている	煙突を掃除してください
薪の燃えが早すぎる	燃焼用給気口が全開になっている	天板の温度が180~250℃位になったら、燃焼用給気レバーを調整してください 火を弱める場合は、給気口を閉めます
	針葉樹を燃やしている	ナラ・ブナなどの広葉樹を使用してください 松等の針葉樹は、ヤニなどの高燃焼成分が多く、広葉樹に比べ燃焼は早くなります ゆっくり炎を楽しむ場合には広葉樹をおすすめします
	細い薪を多く使用している	太い薪を使用してください
	ドアがしっかり閉まっていない	ドアを閉めてロックしてください
	ガスケットが消耗している	ガスケットを交換してください
ガラスが汚れやすい タールが漏れる	薪が湿っている	よく乾燥した薪を使用してください
	給気口レバーを閉めるのが早い	全体が暖まっていないときに給気を絞ると、不完全燃焼となり、ススが多く発生します 薪とおき火の状態により給気口を調整する 漏れたタールは随時拭き取ってください
金属音がでる	鋳物の膨張収縮できしみがでる	異常ではありません
ストーブがなかなか暖まらない	薪が十分に乾燥していない	よく乾燥した薪を使用してください

※点検確認作業はストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
弊社または特約店、販売店へご連絡いただければ、煙突掃除及び点検整備いたします。

MEMO

MEMO

MEMO

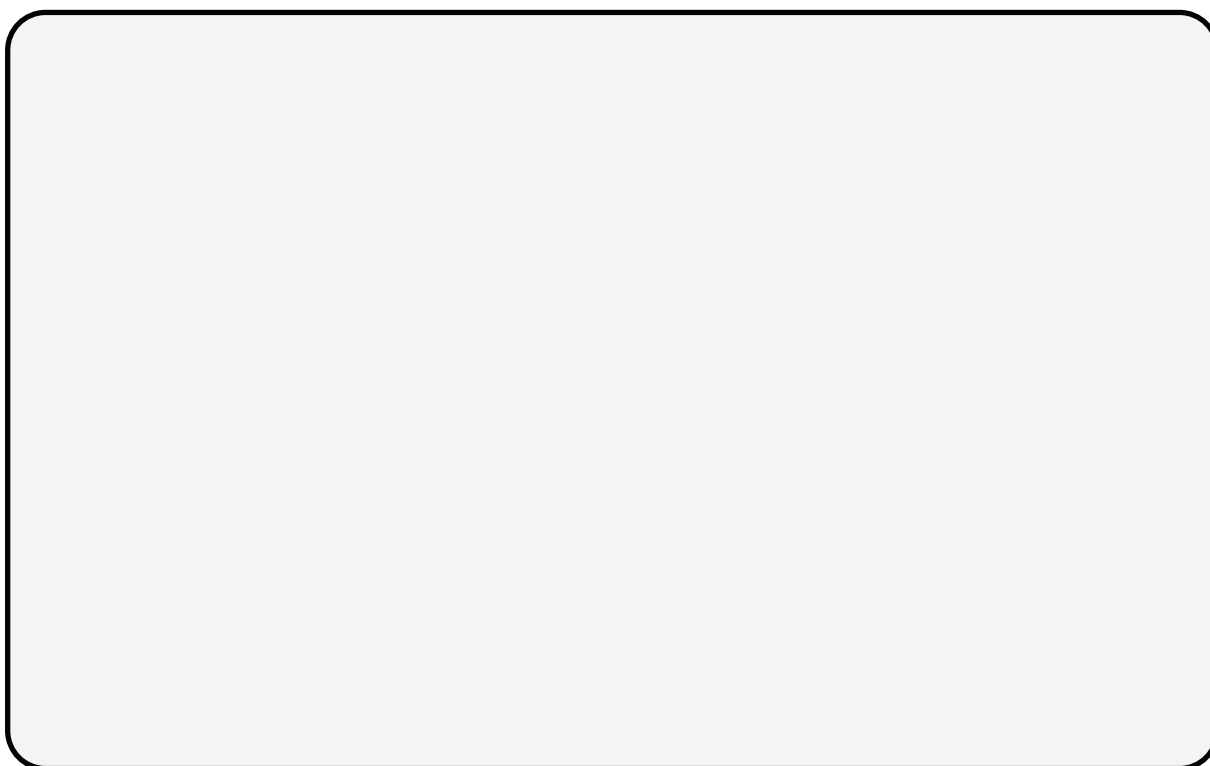
【輸入元】

株式会社メトス

—— 昭和飛行機グループ ——

札幌営業所	〒062-0902 札幌市豊平区豊平2条2丁目3-1 アクアトピア豊平2階 TEL：011-876-0699 FAX：011-595-8299
仙台営業所	〒981-3135 仙台市泉区八乙女中央1-7-5 (八乙女オフィスビル) TEL：022-771-5242 FAX：022-371-9671
東京営業所	〒104-0045 東京都中央区築地6-16-1 (築地616ビル) TEL：03-3542-0573 FAX：03-3544-1874
名古屋営業所	〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目10-17 (今池セントラルビル 3F) TEL：052-856-6144 FAX：052-856-6145
大阪営業所	〒550-0004 大阪市西区靱本町1-6-6 (大阪華東ビル) TEL：06-4803-0168 FAX：06-4803-0456
福岡営業所	〒812-0015 福岡市博多区山王1-1-32 (博多堀池ビル) TEL：092-471-5801 FAX：092-471-5802
沖縄出張所 (大阪営業所管轄)	〒900-0022 那覇市樋川2-6-1 (兼城ビル) TEL：098-894-9779 FAX：098-894-7155

製品の点検修理・部品のご用命はこちらまで



Contura

